

長田区会

初めての絵画展

長田区会長(美8) 松本 治司

ボランティアの事で長田区役所へ相談に行った時のことだった。区役所に勤める知人から、「松本さん絵を描くと聞いたが、一度行って見たらどうかと言って紹介されたのは「長田公民館」だった。長田公民館は生涯学習の場として、地域の老若男女が集まり、ダンス・パソコン・コーラス・書道など約 60 のグループが登録されているが、その中に「水彩画サークル」がある。

このサークルには指導員が居ないので毎回静物画ばかり描いているようだと言われてくれた。しかし、とくに紹介は出来ないで勝手に行ってくれと言う。指導員の資格も無いわたしがどうして教室に入るか思案したが、昨年6月に自己紹介のつもりで、自分の作品を持って皆さんに会いに行った。しかし、思った通り冷たい反応で、皆さんはチラッとわたしを見たがその後は全く無視された。この教室は毎週金曜日の午前中が練習日ですが、無視されながらも続けて3回訪問した。その内に少しずつ私の話を聞いて呉れるようになってきた、嬉しかった。これでボランティア活動の場がまた一つ増えたと思った。

しかし、私には絵画を指導するというボランティア活動の他に別の目的があった。高速長田駅と地下鉄長田駅の連絡地下道に「さるびあギャラリー」と言う展示場があるが、この展示場に生徒さん達の絵を展示したいと言う思いがあった。そして9月に入った頃、生徒さん達にその思いを話した、また展示の絵は静物画ではなく風景画で統一する事を話した。勿論皆さんから猛反対された。殆どの人は風景画を描いた事が無いという。しかし、その後少しづ

つ説得しながら練習日を重ねてきた。

展示日は12月1日から12月22日と決まった。どんどん展示日が迫ってくる。追い立てられるように皆さんも作品の制作に夢中になった。そして11月28日にようやく最終の作品が完成した。教室に全員の作品を並べて観賞したが、皆さんには完成した喜びと充実した顔があった。

「さるびあギャラリー」は多くの人に見て貰った、展示会は成功だった。また協賛としてシルバーカレッジ8期生の皆さんの絵も同時に展示してくれた。

その後は、今までおしゃべりだった教室に大きな変化が見られるようになった。モチーフも変わり風景画を描く人が増えた。皆さんから次に何を描きますかと言う質問があった。

21年2月の広報誌長田区版に展示の様子が紹介される。

ボランティアについて思うこと

美8-文 松本 治司

ボランティアという言葉は以前にも聞いたことがあるような気がするが、はっきり意識したのは阪神淡路大震災後のことだった。

私も長田で被災して、西神南の仮設住宅で約一年間不自由な生活を体験したが、その時多くのボランティアの人達から暖かい支援を受けた。北は北海道・南は九州まで、大勢の人達がボランティア活動に参加してくれた。

震災当時、まだ若かった私はそのボランティア活動に感動し、いつの間にか私自信その人達の仲間となってボランティア活動を始めていた。そんな事もあって仮設住宅で自治会長に推され更に忙しい日が続いた。テレビにも出て仮設住宅の現状を訴えた。その時初めてボランティアと言う意味を再確認して、更にその必要性を痛感した。

しかし、地道にボランティア活動をしている人達に世間を冷たかった。有名な歌手が三宮方面で慰問訪問をして大勢の前で歌ったと言って新聞が大きく取り上げた。しかし、その時私達の仮設に若い女性歌手が慰問に来てくれた。遠慮がちに「歌を唄わせて下さい」と言ってわたしの所へ来た。ビクター所属の現役の歌手だった。

250人の住民の半分の人達が「ふれあいセンター」に集まった。その歌手は私服ではなく舞台衣装に着替えて小さな舞台に立った。そして歌った。頑張っね・・・と言いながら皆さんと握手をしながら10曲ほど歌ってくれた。

仮設の皆さんが泣いた。歌手も泣いた。私はその一部始終を録画して、コメントを副えて新聞社に掲載を依頼したが、結局新聞に載ることはなかった。

以前は「ボランティアをしています」と言う「えらいね」と皆さんが言って感心した。しかし、

(次ページに続く)

